

拝啓 今年も早や8月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、百日紅の花が満開です。先日いつもの散歩の友人と百日紅の並木通りを歩いて観賞しました。

今回も、「小西芳之助先生金曜会語録」からの引用の第10回目です。今回の部分は、昭和38年から39年頃金曜会に出席された時の話です。今回の語録の中では、私は、「自分の目の前に落ちて来たことを誠心誠意やる」という言葉に実に励まされています。7月ごろ以来、津山土岐家財団の立て直しを図ると言う仕事が発生して、2週間に一度くらい岡山県の津山に通い、財団の発足の準備をしています。今は、南原研究会とともにこれが自分に与えられた仕事と思い、全力を挙げています。前の役員に全員やめてもらい、歴史的資料は津山郷土博物館に寄付し、元々土岐家の歴史資料館として考えられていた建物を、集会所として利用されるように組み替えの作業をしています。集会所が少ない地域で、非常に喜ばれる用途変更のようでした。また、併せて、理想を高くかかげて、津山の歴史や教養や趣味の活動にも使われるように最も効果的に使用されるようにルールを敷きたいと考えています。小西先生の教えは、復活中心ですが、それが目の前の義務を果たせという教訓に、ものすごいエネルギー（力）を与えてくれるように思います。

8月22日(土)22日(日)は、長野県穂高町で開かれた「安曇野夏の集い」に、童謡・唱歌の会の寺門文雄さん、松本健さん夫妻と参加しました。着いた日は、大王わさび園、早春譜の碑、礫山美術館を、地元にお住まいの福沢信二さんと一緒に御案内しました。

この安曇野聖書の集いには、毎年日野原重明先生がお見えになりお話されます。日野原先生は、今年103歳で、車いすで移動されますが、お話しの声は明瞭でした。主宰された鳥居祝子さんは、昨年ご主人の鳥居勇夫さんを、翌朝の聖書研究会の調べ物をしている真夜中に、心臓発作で5分ほどの内に急逝されたという悲しい経験をされたにもかかわらず、今年も聖書集会を開かれた勇氣に感銘を受けました。私たち3人は、ああいう人をゴッド・マザーというのだ、と話していました。

土曜日は、まず日野原先生の「鳥居勇夫を天に送りて」というお話。その中で引用された植村正久牧師が訳された「天に一人を増しぬ」というイギリスのサラ・ストックの詩のコピーを同封します。(この詩は、今年の1月安城市で開かれた鳥居さんの告別式で、日野原先生の弔辞で引用され、私もエンカウンターの154号の送り状で一部を引用しました。)次が西村頌先生(東大名誉教授)の「自由人を創るわざ・リベラル・アーツを考える」というお話で、結論のところで、「学校教育におけるリベラル・アーツには限界がある。宗教(キリスト

教)の勉強が必要」という結論には、そうだと思います。講義の後、童謡の会から参加した、私と寺門さんと松本健さん御夫妻が前に出て、皆さんと一緒に、「早春譜」「山小屋のともしび」「ふるさと」「はるかな友に」を合唱したのは愉快でした。

翌日は、まず 6:30 から早天祈祷会に参加し、その後朝食を頂きましたが、鴨下重彦先生の奥様が出席されており、朝食を頂きながら鴨下先生の思い出話をいろいろすることが出来たことも奇遇でした。

8:30 からは、まず西村忠彦先生の「上原良二と今を生きる」という話でした。上原良二さんというのは、地元の池田町出身で、慶応大学在学中に学徒動員し、戦闘機の操縦士となり、特攻隊で戦死された方で、『きけわだつみの声』の第 1 頁の遺書を書いた人です。講師の西村忠彦先生は、長野高等学校校長を退職され 84 歳の方ですが、「聴けわだつみ 70 年の会」代表等として、上原良二さん戦争反対のシンボリックな人として、皆さんに伝えている方です。非常に感動的なお話でした。最後に、上原さんが学生時代よく歌っていた「谷間のともしび」を、英語でお一人で歌われたことにも感動しました。

次は、小塩節先生の「ゲーテのファウスト」に聴く』という題の「ファウスト」の主に第 2 部のお話でしたが、聞いていて、ゲーテは、最後はキリスト信仰をもっていたように感じました。終わったあと、私は質問して、カーライルの「サーター・リサートス」にでてくる、do the nearest duty という言葉は、ゲーテから学んだのではないのでしょうか、『ウイリヘルム・マイスターの就業時代』とか『遍歴時代』にあるのではないのでしょうか、という質問をしたら、後で調べて返事するという事でした。日野原先生が、ゲーテに関連して学生時代「シューベルトの菩提樹」を独唱で歌ったことがある、と話されたので、小塩先生が、ドイツ語でうたって下さい、と頼まれました。たまたま私は、「菩提樹」のドイツ語の歌詞が出ている歌集をもっていたので、日野原先生にお示しし、鳥居祝子さんも加わって下さり、「菩提樹」の一番を 3 人でうたいました。これは、わが一生の思い出話になりそうです。

このように鳥居さんが御主人を亡くされた後最初の集いでしたが、実に感銘を受けることの多かった会合で、良い retreat (命の洗濯) になりました。

暑い夏が終わり、台風が来て、急に涼しい秋に変わろうとしています。皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、お過ごしください。

敬具

平成 27 年 8 月 26 日

山口周三

エンカウターの読者各位